

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600450
法人名	有限会社 グループホームあまご
事業所名	グループホームあまご
所在地	愛媛県喜多郡内子町只海甲855-15
自己評価作成日	平成28年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29 年 1 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のペースに合わせて、ご家族様、職員が一緒になって楽しく暮らす大家族です。その為に、『一人ぼっちにしない』『いつも笑顔で語り合う』『楽しく遊ぶ』『楽しくお手伝いをする』『ごちそうを食べる』『体調の変化を尋ねる』を心がけ個々の満足度を考えながら今の能力に応じた暮らしができるように支援、また、個々の能力が維持できるように支援しています。主治医宅が隣接しておりすぐに診察ができて、訪問看護ステーションとの連携があるので健康管理や体調の変化への対応が24時間できる体制です。軽度の肺炎や脱水症状がある場合などは入院せずホーム内で治療ができます。終末期においては、ご家族様、主治医や訪問看護、職員が連携をとり一体になりお看取りをさせて頂くことができます。日頃から何かと地域の方にはお世話になっていて、地域の方の協力の下で家族会や花火大会、避難訓練などを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長や管理者等近隣在住の職員は、地区行事にまめに参加し地域の一員として交流しており、地域住民とは顔馴染みの関係になっている。職員全員が一丸となり、利用者の思いを尊重し自己実現を目指して取り組んでいる。施設長が医師で利用者の健康管理や急変時の対応も万全であり、家族等は安心である。管理者はアットホームな職場環境づくりに取り組んでおり、職員は働きやすい環境の中、利用者や家族、地域住民の協力を感謝しながら、研修や資格取得等研鑽を積み地域密着型サービスの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあまご

(ユニット名) どじょっこ

記入者(管理者)

氏 名 藤澤邦哉

評価完了日 平成28年12月30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は、地域密着型サービスの意義を踏まえ取り組みやすい内容になっており建物内の数か所に掲げてある。職員全員が理念に基づく行動をとっている。	
			(外部評価) 開設当初からの理念である「利用者の意思の尊重、利用者のペースに合わせる事、会話を大切にすること」を大切に継承している。管理者と職員は理念を共有し常に念頭に置き、利用者本位のケアができるよう円滑な業務の遂行に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	(自己評価) 野菜の差し入れや、散歩の時に地域の高齢者や子供たちに声をかけてもらったりしている。小学校との交流もあり遠足時には、休憩所として活用して頂いている。事業所の避難訓練にも参加して頂いており支援体制ができている。地域の一人としてというより、運営者や職員が地域に住んでいる。	
			(外部評価) 日常的に散歩が行われている。調査日も天気が良く、職員が車いすの利用者と会話しながら散歩する姿がみれた。管理者や数名の職員が近隣に住まいを構えていることから地域とのつながりは強く、日課の散歩では地域住民と会話したり、近くの小学校との交流も盛んで、運動会などの行事でも相互に参加し合っている。住民から野菜の差し入れがあったり、姿を見ない利用者のことを心配してくれるなど、地域の一人としての付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 花火大会を催し地域の子供たちやご両親などが一堂に集まる機会を作ったり家族会には地域の方を招待して利用者との交流を図っている。地域の方と一緒に認知症や高齢者虐待防止法、身体拘束のことなどを学習する機会を設けている。小学校を訪問して車椅子の操作や口腔体操などを実践して学んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 事業所内の近況、運営状況、サービス状況の報告や、学習内 容の公表などを行い意見や質問を頂き会議の中で課題をどう クリアしていくかを検討している。次の会において実践結果 の報告を行っている。	
			(外部評価) 各区長や自治会長、民生委員、近隣住民、家族等多数の参加 を得て開催している。会議内容は、事業所の運営状況等の報 告や地域高齢者の健康問題等にかかる相談、ニュースで取り 上げられている事柄等が議題に上がっている。また、会議に 合わせて認知症などの勉強会も実施するなど、職員のスキル アップにも努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議やメール、直接役場に行くなどをして関わりを 持つ機会を増やしている。介護相談員の受け入れを行って おり直接事業所のサービス状況を知って頂いている。また、わ からないことや困ったことに関していつでも相談できる関係 を作っている。	
			(外部評価) 町担当職員が運営推進会議に参加し、事業所の実情を把握し ており、介護保険更新手続きやアスベスト調査等について相 談し、貴重な助言をもらうこともできた。町担当者も近隣住 民で何でも気さくに話せる関係で心強い。介護相談員が、利 用者の相談に乗るために年2回訪問し、親身に話を聞いても らい利用者は感謝している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所内外で学習をする機会を持っている。また、運営推進 会議での学習も行っている。身体拘束はずっと行っていない。 (外部評価) 毎年内部研修のテーマとして身体拘束を取り上げ、その弊害 について理解するなど意識を高めており、拘束をしないケア に努めている。利用者の安全を最優先し、職員全員で不適切 なケアになっていないかどうか再確認しながら、利用者の尊 厳を損なわないよう支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内外で学習をする機会を持っている。また、運営推進会議での学習も行っている。不適切なケアにならないよう職員全体で意識をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 全職員ではないが事業所外で学習する機会があった。当事業所のある町では盛んに活用されていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約には、必ず重要事項説明を行っている。不明な点などにもその時にお答えしている。また、契約後にも質問や要望があれば適切に対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 担当学会議や運営推進会議、面会時に積極的に利用者様や家族様へご意見やご要望を伺う機会を持っていて、職員、管理者、運営者が柔軟に対応している。 (外部評価) 家族と協働して利用者を支えていきたいという方針のもと、家族と良好な関係を築いている。遠方の家族には電話や手紙等で利用者の状況を報告し意見を聞くようにしている。また、運営推進会議と同時に開催される家族会では地域住民と家族が交流を図り、情報交換や片付けを協力して行うなど、地域との連携も強さが感じられる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のカンファレンスの時や、日常的に運営者・管理者がホーム内にいるので行事や業務内容に関する意見や提案、相談が行われている。 (外部評価) 服薬管理表のシンプル化や天候不良により行けなかった初詣を日を改めて実施する提案など、積極的な意見やシフト面の相談も多く、管理者は反映するよう努めている。職員の要望が多い資格取得や研修への参加には、事業所として積極的に支援するなど、職員のスキルアップにも努めている。また、施設長も毎日事業所に顔を出し、職員の意見を聞いたりねぎらいの言葉をかけるなど配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者・管理者がホーム内にいることが多く、職員からの話を聞く機会を持ち勤務状況把握に努めている。個々の家庭環境に応じた雇用形態を実施している。やりがいを感じれるように一人一人が業務についての係りを受け持つようにしている。有給の消化や退社時間の遵守が行われている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月事業所内で勉強会を行い、グループホームで勤務するのに必要な知識・技術などを専門職を招いたりして習得して頂いている。社外での研修情報は、見やすいところに置いている。長期の研修の場合は無理なく受講できるように勤務にも配慮を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各事業所での持ち回りで内子町グループホーム連絡会を毎月開催しており管理者間や合同研修や合同運動会、合同講演会などを通じて交流を図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に、面接や見学などを通じてご本人や家族様、関係者からなるべく多くの要望や情報を収集してアセスメントを行い居心地の良い環境を作ることに努め、より早く安心して暮らせるように支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 見学や事前調査の時には、じっくりと時間をかけて不安や要 望を伺うことはもちろん、初期だけにあらず面会や電話など での近況報告を通じ常に家族様との信頼関係を保て、家族様 にとっても居心地の良いホームになるよういつも全職員、運 営者は努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 内容のあるアセスメントを行い、まず必要な支援は何かご本 人や家族様と一緒に考えてサービスを開始している。リハビ リやマッサージなどの以前使っていたサービスも可能なら継 続して頂いく方向で対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 自立の支援ということを念頭に、能力や意思を見極め小さな ことでもいいから生き甲斐を持って暮らせるよう支援してい る。立場は違えど同じ人間として尊敬しあえる関係を築ける よう共に暮らしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 契約時に共に支えてくださいとお願いしている。面会は、家 族様とご本人の大切な時間という認識をもとにゆっくりと気 持ち良く過ごして頂ける様にしている。外出や飲食などを含 め自由にして頂ける様に配慮している。居間などで他の利用 者様を含めてお喋りをすることもあり気軽に面会に来て頂け る様に配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) ホームでの生活が長く要介護度の高い方が多いが、友人への 電話の取次ぎや少人数でのドライブ、隣のホームとの往来な ど他にできることはないかと相談しながら馴染みの人、場所 との関係が保てるように支援している。 (外部評価) 行きつけの美容室や歯科に家族や職員が付き添って行っ たり、知人に電話をしてほしいと希望があれば職員が取り次 ぎをしている。昔お世話になったからと利用者を誘い出してく れる知人もいる。農繁期になると近くの棚田に行き、田植え や稲刈りなど、一年の流れを感じながら見守る利用者も多 い。またドライブがてら近くの神社をお参りしたり精米に 行ったりと、職員は少しの時間でも馴染みの場所に行けるよ う支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) コミュニケーションに支援が必要な方が多く、利用者同士のみで関わり合っている場面は少ないが、優しい声掛けをしていただいたり、気が利いた対応をしてもらったりしたときには必ず代わりにお礼を言って利用者同士の関わりが無くならないよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同じ地域で暮らしている方が多く出会う機会が多いのでその時には、話しかけている。他の施設に移られた方が、時々会いに来ることもある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のコミュニケーション、色々な記録やアセスメントツールを利用して一人一人の思いや意向の把握に努めている。その時その時の支援においてもまずはご本人のその時の意向や思いを伺ってサービスの提供を行っている。困難な場合でも、会議などでご本人の立場に立って思いや意向をみんなで相談して支援を行っている。	
			(外部評価) 日常のかかわりを大切にして利用者の思いを確認したり、記録やアセスメントで思いや意向の把握に努めている。トイレ誘導を望まず、自分の行きたい時に一人で行きたい利用者もいるなど、利用者の自主性に任せ支援している。思いの把握が困難な利用者は、表情や動作から汲み取って推察するなど、利用者一人ひとりの思いを最大限に尊重し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用してどのように生きてきたのかを把握するように努めている。また、日々の会話を増やしてご本人や家族様から新しい情報を得てサービス内容の作成に生かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ご本人とのコミュニケーションや様々な記録やアセスメントツールを利用して現在の状態の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成においては、日々の記録やアセスメント、ご本人や家族様の話をもとに担当者がモニタリングを実施して担当者会議にて課題の抽出やケアの方向性について話し合いを行っている。担当者会議には、ご本人や家族様、主治医や訪問看護師も参加している。 (外部評価) 介護計画は計画作成担当者を中心に、利用者や家族、必要に応じ医師や看護師も参加する担当者会議で話し合いを持ち作成されている。入居時は寝たきりだった利用者が車いすに移乗できるようになった事例もあり、利用者の残存機能を引き出すよう介護計画に盛り込むなど、利用者一人ひとりに合った支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に様々な記録をとりより正確な現在の状態の把握に努め、特に大切なことは申し送りノートを活用して情報の共有を図ってケアの実践を行っている。様々な記録をモニタリングに活用している。看取りの時には、別の記録を利用して24時間での健康状態や食事や水分の摂取量が誰でも把握できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 毎月の往診や訪問看護や訪問リハビリ、訪問マッサージなどホームに居ながら医療や療養が受けられる体制にしている。移動販売に定期的に寄って頂いて居ながらにして買い物ができる体制にしている。急な要望に対してもなるべく早く対応を行い安心して暮らせる支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 各種のボランティア、地域の小学生との交流、近隣の方との避難訓練、移動販売、介護相談員の訪問など地域の人との様々な形でふれあい社会性のある生活の支援を行っている。なによりもホームを一步出れば、田畑や四季折々の花や果実、里山の移り変わりなど自然とすぐに触れ合える環境である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 施設長が主治医でありすぐ近くに住んでいる。深夜でも急変 があれば主治医へ報告を行いすぐに往診が受けられる体制で ある。主治医がホームに来ることが多く、ご本人が、直接健 康相談をしている時もある。家族様の要望や主治医の判断で 病院受診が出来る体制である。ご本人や家族様からは、安心 していますとの言葉もある。 (外部評価) 施設長が医師で主治医となっており、近隣に居住のため24 時間医療連携が取れ利用者や家族の安心につながっている。 水分不足や食事量低下の利用者への点滴など、訪問看護が受 けられるようになっており、医療面では何の心配もなく利用 者が安心して暮らせるよう支援され、家族も心強く感謝して いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 事業所及び各利用者が訪問看護ステーションと契約を行っ ておりいつでもホーム内で看護が受けられる体制である。 ホームに訪問看護師が来ている時が多いので職員は気づきや 不明な点があればすぐに必ず相談して適切な指示を仰いでい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時の情報交換はしっかりと行っている。主治医や家族 様、面会の時のご本人を通じて暮らしぶりや状態の把握に努 めている。当ホームの協力医療機関は、施設長(主治医)が勤 務しているので入退院はスムーズに行われている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用契約時に重度化や終末期の指針の説明を行っている。重 度化の各段階で、家族様やご本人の要望を伺う機会を作り サービス計画を改めホーム職員、家族様、主治医、訪問看護 師と連携をとりながら重度化、終末期の支援を行っている。 (外部評価) 看取り指針を定め、利用者や家族の要望に応え積極的に終末 期ケアに取り組んでおり、現在3名の終末期ケアの利用者が いる。管理者は終末ではなくそれまでのケアが大切と考えて おり、利用者が納得し満足してもらえるよう支援に努めてい る。また内部研修で急変時対応等の勉強会も持っており、職 員の意識向上につながっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 内外の研修で急変時や事故発生時の対応について学ぶ機会を持っておりマニュアルをホーム内に掲示している。主治医や管理者、職員の役割や責任、判断の基準や権限を明確にしておき、日々のケアの中で実践する機会もある。いつ急変や事故に遭遇しても対応できる力をつけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は、近所の方、事業所関係者全員、地域の消防署の協力の下で行っており利用者を避難させる方法を身に付けている。また、ご近所様との支援体制もできている。管理者は、内外での災害対策の勉強会に出席しており最新の情報や過去の事例を知る機会を得てそれを事業所の災害対策に生かしている。災害別のマニュアルをホーム内に掲示している。 (外部評価) 年2回消防署立ち合いのもと避難訓練を行っており、地域住民も連絡網に入り訓練にも参加するなど協力体制が整っているほか、管理者自身も地域の消防団員であり緊急災害時の連携は万全である。近くには危険区域ではないが土砂崩れが心配な箇所があり、行政とも確認済で今後の検討課題となっている。内外の災害対策の研修会や勉強会に参加するなど、日頃から防災意識を高めるよう努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 適切な応答があってもなくても必ず声をかけて介助を進めるようにしている。自尊心を失うことなく排泄や食事、入浴などの介助を受けれるようそれぞれに合わせた配慮をしている。介助者側は何かにつけ『ありがとう』の言葉をかけ日々の暮らしの中で自信を持ってもらえる場面を作るように努めている。 (外部評価) 排泄や入浴時には利用者の気持ちを理解し、自尊心を傷つけないよう配慮している。職員は利用者の要望を聞き、思いをしっかりと汲み取るよう努めている。職員は常に利用者に尊敬の念を持ち「ありがとう」という感謝の言葉を忘れないようにしており、利用者の尊厳を守ることを第一に考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 普段の会話の中で、意図的に自己決定や希望の表出が行われるよう配慮している。困難な方でも表情やしぐさをしっかりと観察してご本人の意思を把握するように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースやその時の意向を把握して、それに合わせながら支援を行っている。また、妥当な判断でなくてもまずは要望に沿った支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えを自分で選んでもらったり、職員と一緒に選んだりして頂いている。毎朝、モーニングケアとして身だしなみの確認や整える支援を行っている。家族様の協力で定期的に美容院へ行っている方も居る。行事や外出などではなるべくおしゃれが出来るようメリハリをつけるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生日には、ご本人の要望に合わせた献立にしている。献立には季節の新鮮なものを使っている。嚥下機能の低下がある方でもリスクを見極め好きなものを食べて頂けるように努めている。意欲のある方には、台拭きや食器拭きを依頼して一緒に行っている。職員も一緒に同じものを食べて会話をしながら楽しんでいる。 (外部評価) 職員全員が順番で献立を立てたり食材の買い物をしている。食事前には体を動かし食欲増進を図ったり、旬の野菜を取り入れ利用者に季節感を味わってもらったりなど、食事を楽しんでもらえるよう努めている。調査日当日も菜園でとれた大根を使ったメニューで、利用者は満足そうに笑みを浮かべ職員も一緒に食卓を囲んで和やかな雰囲気の食事風景であった。誕生日のリクエストメニューや正月にはおせち料理が味わえるなど工夫されている。また、利用者の自主性を尊重し食後の片付け等できることを手伝ってもらっており、貴重な戦力となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の食事量や水分摂取量を記録して把握している。定期的に検査を行い栄養状態の把握も出来ている。無理強いせず、食べれるだけ飲めるだけ、ご本人の意向に合わせて飲食の支援を行っている。栄養補助飲料で不足分を補える支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔内の清潔維持の重要性を認識している。介助の必要な方には、付き添って支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄の記録を行い一人一人の把握に努めている。排泄にかかわる動作のうちどこかの介助が必要なのか把握して自立を支援している。現在は、オムツを使用している方が多いが、トイレで排泄を行う意義を十分に認識して、オムツにならないよう一日でも長くトイレで排泄し続けれるよう努めている。 (外部評価) 各ユニットにトイレが3か所設置されており、車いす利用でも余裕のある広さで、手すりや立ち上がりバー、背もたれが設置され利用者が安全に排泄できるよう配慮されている。職員はトイレで排泄する意義を十分に理解し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の記録を行っている。基本的には、毎日の運動や栄養・水分摂取で気持ちの良い排便を目指している。出にくい方には、主治医と相談して内服薬で調整したり、マッサージ、腹部を温めるなどの工夫をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望があればいつでも入浴は出来る。毎日を希望される方は居ません。今日は、いつごろ入りたいか毎回伺っている。湯加減やご本人の習慣に合わせ、能力に応じた介助を行い気持ち良く、安心して入浴できる支援を行っている。 (外部評価) 週3回の入浴を基本としているが、希望があればいつでも入れるよう対応している。リフトの設置など、利用者の状態に合わせて安全に入浴できるよう配慮されおり、浴槽は両側から介助できるよう中央に設置されている。入浴の苦手な利用者には声かけのタイミングを変えたり、同性介助に切り替えるなど工夫し、無理強いすることなく入浴できるよう支援している。また、季節に合わせゆず湯にし利用者に喜ばれるなど、入浴時間を楽しんでもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご本人の判断を優先して休みたいとき、寝たくなった時に自由に寝起きをしていただいている。自分の家から使い慣れた寝具を持って来ている方も居る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別の投薬管理表があり、どんな薬を服薬しているのか分かるようにしている。一回一回分包されていて、飲み込みの確認を行っている。薬の変更や、症状の変化などは申し送りノートに記載、変化を主治医へ報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人や家族様から生活歴や嗜好、趣味の情報を得て、多様、多様なレクリエーションを提供し、ホームでの生活の中で一人一人が生き生きとした場面を作り出せるように支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 戸外に出ることの意義を理解して安全に楽しめる外出支援を行っている。天気の良い日以外は、希望に応じて散歩に出ている。希望がなくても声をかけ屋外に出る機会を設けている。散歩にかかる時間なるべくご本人の意向に合わせている。家族様や友人の協力で頻繁に外出や外泊をされる方も居る。希望がなくても、棚田や花畑へのドライブなどに誘っている。 (外部評価) 暖かい日には近くにある3か所のお堂を順番に回ったり、近くの鯉が泳いでいる川や一面に広がる田畑などを見ながら散歩し、自然を満喫している。また、職員と買い物に出かけたり、家族や知人と一緒に地元に帰ったり外食するなど、利用者が思い思いの時間をゆっくり過ごせるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 重度化や、ご本人からの要請があったり、度々に盗んだ、盗まれたなどホーム内でトラブルを起こすなどの理由で現在自分でお金を持っている方は居ません。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望があれば、取り次いだりするなどの支援を行い友人や家族様と電話でやり取りして頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 花や装飾で季節感を出したり、山の中なのでこまめに温度や光の調節を行い気持ち良く過ごせるように配慮をしている。また、ソファや椅子などを置き共有空間でも自分の居場所が確保できるようにしている。ホーム内の消毒や掃除をこまめに行い清潔を維持している。常に、家だというコンセプトを崩さずに共有空間作りをしている。 (外部評価) テラスに設けられた家族手作りの軒のお陰で、リビングに差し込む日差しはやわらかく気持ちがいい。壁には書初めや小学生との交流写真、利用者の手作り作品が飾ってある。また、できるだけ生花を飾って季節を感じてもらおうようにしており、居心地よく過ごせるよう努めている。廊下には吹き抜け部分があり、家族手作りの物干しを利用し天気の良い日の洗濯物を干す場所にも事欠かない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや椅子を配置して自分の居場所が確保できるようにしている。気の合った者同士でおしゃべりをしたり、一緒に相撲中継や時代劇を見たりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時には、家族様へ新品の物でなく使い慣れた生活用品を持って来て頂くようお願いしている。基本的に持ち込みの制限は行っていないので一人一人の居室が個性的である。寝具や時計、思い出の写真や家族様からのプレゼントなど、楽しみや安心感が持てる自分だけの部屋を作っている。 (外部評価) ベッドとエアコン、タンスが備え付けとなっている。利用者は使い慣れた家具やテレビ、時計などを持ち込み、壁には千羽鶴や誕生日祝いの寄せ書きが飾ってあったり、お札や亡き夫の写真が持ち込まれ、毎朝お経を唱える利用者もいるなど、それぞれ個性のある部屋になっている。部屋の入口には避難確認がわかる板を吊り下げており、表には利用者の思いの言葉が書かれ、裏には避難済みがわかるテープが貼ってあり、緊急時に配慮した居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室の設備、分かりやすい標識、身の回りの家事などに関して、それが出来る為、分かる為にはどうすれば良いのかを検討して一人一人が力を発揮しながら安全に生活できるように配慮を行っている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600450
法人名	有限会社 グループホームあまご
事業所名	グループホームあまご
所在地	愛媛県喜多郡内子町只海甲855-15
自己評価作成日	平成28年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29 年 1 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者のペースに合わせて、ご家族様、職員が一緒になって楽しく暮らす大家族です。その為に、『一人ぼっちにしない』『いつも笑顔で語り合う』『楽しく遊ぶ』『楽しくお手伝いをする』『ごちそうを食べる』『体調の変化を尋ねる』を心がけ個々の満足度を考えながら今の能力に応じた暮らしができるように支援、また、個々の能力が維持できるように支援しています。主治医宅が隣接しておりすぐに診察ができて、訪問看護ステーションとの連携があるので健康管理や体調の変化への対応が24時間できる体制です。軽度の肺炎や脱水症状がある場合などは入院せずホーム内で治療ができます。終末期においては、ご家族様、主治医や訪問看護、職員が連携をとり一体になりお看取りをさせて頂くことができます。日頃から何かと地域の方にはお世話になっていて、地域の方の協力の下で家族会や花火大会、避難訓練などを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長や管理者等近隣在住の職員は、地区行事にまめに参加し地域の一員として交流しており、地域住民とは顔馴染みの関係になっている。職員全員が一丸となり、利用者の思いを尊重し自己実現を目指して取り組んでいる。施設長が医師で利用者の健康管理や急変時の対応も万全であり、家族等は安心である。管理者はアットホームな職場環境づくりに取り組んでおり、職員は働きやすい環境の中、利用者や家族、地域住民の協力に感謝しながら、研修や資格取得等研鑽を積み地域密着型サービスの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあまご

(ユニット名) ふなっこ

記入者(管理者)

氏 名 藤澤邦哉

評価完了日 平成28年12月30日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は、地域密着型サービスの意義を踏まえ取り組みやすい内容になっており建物内の数か所に掲げてある。職員全員が理念に基づく行動をとっている。	
			(外部評価) 開設当初からの理念である「利用者の意思の尊重、利用者のペースに合わせる、会話を大切にする」を大切に継承している。管理者と職員は理念を共有し常に念頭に置き、利用者本位のケアができるよう円滑な業務の遂行に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 野菜の差し入れや、散歩の時に地域の高齢者や子供たちに声をかけてもらったりしている。小学校との交流もあり遠足時には、休憩所として活用して頂いている。事業所の避難訓練にも参加して頂いており支援体制ができています。地域の一員としてというより、運営者や職員が地域に住んでいる。	
			(外部評価) 日常的に散歩が行われている。調査日も天気が良く、職員が車いすの利用者と会話しながら散歩する姿がみれた。管理者や数名の職員が近隣に住まいを構えていることから地域とのつながりは強く、日課の散歩では地域住民と会話したり、近くの小学校との交流も盛んで、運動会などの行事でも相互に参加し合っている。住民から野菜の差し入れがあったり、姿を見ない利用者のことを心配してくれるなど、地域の一員としての付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 花火大会を催し地域の子供たちやご両親などが一堂に集まる機会を作ったり家族会には地域の方を招待して利用者との交流を図っている。地域の方と一緒に認知症や高齢者虐待防止法、身体拘束のことなどを学習する機会を設けている。小学校を訪問して車椅子の操作や口腔体操などを実践して学んでいただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事業所内の近況、運営状況、サービス状況の報告や、学習内容の公表などを行い意見や質問を頂き会議の中で課題をどうクリアしていくかを検討している。次の会において実践結果の報告を行っている。	
			(外部評価) 各区長や自治会長、民生委員、近隣住民、家族等多数の参加を得て開催している。会議内容は、事業所の運営状況等の報告や地域高齢者の健康問題等にかかる相談、ニュースで取り上げられている事柄等が議題に上がっている。また、会議に合わせて認知症などの勉強会も実施するなど、職員のスキルアップにも努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議やメール、直接役場に行くなどをして関わりを持つ機会を増やしている。介護相談員の受け入れを行っており直接事業所のサービス状況を知っている。また、わからないことや困ったことに関していつでも相談できる関係を作っている。	
			(外部評価) 町担当職員が運営推進会議に参加し、事業所の実情を把握しており、介護保険更新手続きやアスベスト調査等について相談し、貴重な助言をもらうこともできた。町担当者も近隣住民で何でも気さくに話せる関係で心強い。介護相談員が、利用者の相談に乗るために年2回訪問し、親身に話を聞いてもらい利用者は感謝している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所内外で学習をする機会を持っている。また、運営推進会議での学習も行っている。身体拘束はずっと行っていない。	
			(外部評価) 毎年内部研修のテーマとして身体拘束を取り上げ、その弊害について理解するなど意識を高めており、拘束をしないケアに努めている。利用者の安全を最優先し、職員全員で不適切なケアになっていないかどうか再確認しながら、利用者の尊厳を損なわないよう支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内外で学習をする機会を持っている。また、運営推進会議での学習も行っている。不適切なケアにならないよう職員全体で意識をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 全職員ではないが事業所外で学習する機会があった。当事業所のある町では盛んに活用されていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約には、必ず重要事項説明を行っている。不明な点などにもその時にお答えしている。また、契約後にも質問や要望があれば適切に対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 担当学会議や運営推進会議、面会時に積極的に利用者様や家族様へご意見やご要望を伺う機会を持っていて、職員、管理者、運営者が柔軟に対応している。	
			(外部評価) 家族と協働して利用者を支えていきたいという方針のもと、家族と良好な関係を築いている。遠方の家族には電話や手紙等で利用者の状況を報告し意見を聞くようにしている。また、運営推進会議と同時に開催される家族会では地域住民と家族が交流を図り、情報交換や片付けを協力して行うなど、地域との連携も強さが感じられる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のカンファレンスの時や、日常的に運営者・管理者がホーム内にいるので行事や業務内容に関する意見や提案、相談が行われている。 (外部評価) 服薬管理表のシンプル化や天候不良により行けなかった初詣を日を改めて実施する提案など、積極的な意見やシフト面の相談も多く、管理者は反映するよう努めている。職員の要望が多い資格取得や研修への参加には、事業所として積極的に支援するなど、職員のスキルアップにも努めている。また、施設長も毎日事業所に顔を出し、職員の意見を聞いたりねぎらいの言葉をかけるなど配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者・管理者がホーム内にいることが多く、職員からの話を聞く機会を持ち勤務状況把握に努めている。個々の家庭環境に応じた雇用形態を実施している。やりがいを感じれるように一人一人が業務についての係りを受け持つようにしている。有給の消化や退社時間の遵守が行われている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月事業所内で勉強会を行い、グループホームで勤務をするのに必要な知識・技術などを専門職を招いたりして習得して頂いている。社外での研修情報は、見やすいところに置いている。長期の研修の場合は無理なく受講できるように勤務にも配慮を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各事業所での持ち回りで内子町グループホーム連絡会を毎月開催しており管理者間や合同研修や合同運動会、合同講演会などを通じて交流を図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に、面接や見学などを通じてご本人や家族様、関係者からなるべく多くの要望や情報を収集してアセスメントを行い居心地の良い環境を作ることに努め、より早く安心して暮らせるように支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 見学や事前調査の時には、じっくりと時間をかけて不安や要望を伺うことはもちろん、初期だけにあらず面会や電話などでの近況報告を通じ常に家族様との信頼関係を保て、家族様にとっても居心地の良いホームになるよういつも全職員、運営者は努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 内容のあるアセスメントを行い、まず必要な支援は何かご本人や家族様と一緒に考えてサービスを開始している。リハビリやマッサージなどの以前使っていたサービスも可能なら継続して頂いく方向で対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 自立の支援ということを念頭に、能力や意思を見極め小さなことでもいいから生き甲斐を持って暮らせるよう支援している。立場は違えど同じ人間として尊敬しあえる関係を築けるよう共に暮らしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 契約時に共に支えてくださいとお願いしている。面会は、家族様とご本人の大切な時間という認識をもとにゆっくりと気持ち良く過ごして頂ける様にしている。外出や飲食などを含め自由にして頂ける様に配慮している。居間などで他の利用者様を含めてお喋りをすることもあり気軽に面会に来て頂ける様に配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ボランティアや地域の人々の訪問では、昔の顔なじみの方も多く懐かしみながら生き生きと話す場面があったり、訪問や散歩での出会いが続くうちになじみの人になることもある。家族様からの協力があり家に帰ったり、なじみの美容院に行く機会がある利用者様も居る。 (外部評価) 行きつけの美容室や歯科に家族や職員が付き添って行ったり、知人に電話をしてほしいと希望があれば職員が取り次ぎをしている。昔お世話になったからと利用者を誘い出してくれる知人もいる。農繁期になると近くの棚田に行き、田植えや稲刈りなど、一年の流れを感じながら見守る利用者も多い。またドライブがてら近くの神社をお参りしたり精米に行ったりと、職員は少しの時間でも馴染みの場所に行けるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人一人の個性を大切にしながらもレクリエーションや座席の配置などを工夫して意図的に利用者様同士が関わり合えるように支援を行っている。口論もあるが間に入って仲を取り持ったり散歩や隣のユニットへの訪問などでクールダウンの支援を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 亡くなられた方の家族様が顔を出しに来てくれたり、ホームの建物の修繕をしてくれたりしている。また、身元引受人だった方がホームの職員になっている。同じ町内に住む方が多いので日頃から縁を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のコミュニケーション、色々な記録やアセスメントツールを利用して一人一人の思いや意向の把握に努めている。その時その時の支援においてもまずはご本人のその時の意向や思いを伺ってサービスの提供を行っている。困難な場合でも、会議などでご本人の立場に立って思いや意向をみんなで相談して支援を行っている。	
			(外部評価) 日常のかかわりを大切にして利用者の思いを確認したり、記録やアセスメントで思いや意向の把握に努めている。トイレ誘導を望まず、自分の行きたい時に一人で行きたい利用者もいるなど、利用者の自主性に任せ支援している。思いの把握が困難な利用者は、表情や動作から汲み取って推察するなど、利用者一人ひとりの思いを最大限に尊重し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用してどのように生きてきたのかを把握するように努めている。また、日々の会話を増やしてご本人や家族様から新しい情報を得てサービス内容の作成に生かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ご本人とのコミュニケーションや様々な記録やアセスメントツールを利用して現在の状態の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画作成においては、日々の記録やアセスメント、ご本人や家族様の話をもとに担当者がモニタリングを実施して担当者会議にて課題の抽出やケアの方向性について話し合いを行っている。担当者会議には、ご本人や家族様、主治医や訪問看護師も参加している。 (外部評価) 介護計画は計画作成担当者を中心に、利用者や家族、必要に応じ医師や看護師も参加する担当者会議で話し合いを持ち作成されている。入居時は寝たきりだった利用者が車いすに移乗できるようになった事例もあり、利用者の残存機能を引き出すよう介護計画に盛り込むなど、利用者一人ひとりに合った支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に様々な記録をとりより正確な現在の状態の把握に努め、特に大切なことは申し送りノートを活用して情報の共有化を図ってケアの実践を行っている。様々な記録をモニタリングに活用している。看取りの時には、別の記録を利用して24時間での健康状態や食事や水分の摂取量が誰でも把握できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 毎月の往診や訪問看護や訪問リハビリ、訪問マッサージなどホームに居ながら医療や療養が受けられる体制にしている。移動販売に定期的に寄って頂いて居ながらにして買い物ができる体制にしている。急な要望に対してもなるべく早く対応を行い安心して暮らせる支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 各種のボランティア、地域の小学生との交流、近隣の方との避難訓練、移動販売、介護相談員の訪問など地域の人との様々な形でふれあい社会性のある生活の支援を行っている。なによりもホームを一步出れば、田畑や四季折々の花や果実、里山の移り変わりなど自然とすぐに触れ合える環境である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 施設長が主治医でありすぐ近くに住んでいる。深夜でも急変があれば主治 医へ報告を行いすぐに往診が受けられる体制である。主治医がホームに来 ることが多く、ご本人が、直接健康相談をしている時もある。家族様の要 望や主治医の判断で病院受診が出来る体制である。ご本人や家族様から は、安心してありますとの言葉もある。	
			(外部評価) 施設長が医師で主治医となっており、近隣に居住のため24時間医療連携 が取れ利用者や家族の安心につながっている。水分不足や食事量低下の利 用者への点滴など、訪問看護が受けられるようになっており、医療面では 何の心配もなく利用者が安心して暮らせるよう支援され、家族も心強く感 謝している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 事業所及び各利用者が訪問看護ステーションと契約を行っておりいつ でもホーム内で看護が受けられる体制である。ホームに訪問看護師が来てい る時が多いので職員は気づきや不明な点があればすぐに必ず相談して適切 な指示を仰いでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時の情報交換はしっかりと行っている。主治医や家族様、面会の時 のご本人を通じて暮らしぶりや状態の把握に努めている。当ホームの協力 医療機関は、施設長(主治医)が勤務しているので入退院はスムーズに行わ れている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用契約時に重度化や終末期の指針の説明を行っている。重度化の各段階 で、家族様やご本人の要望を伺う機会を作りサービス計画を改めホーム職 員、家族様、主治医、訪問看護師と連携をとりながら重度化、終末期の支 援を行っている。	
			(外部評価) 看取り指針を定め、利用者や家族の要望に応え積極的に終末期ケアに取り 組んでおり、現在3名の終末期ケアの利用者がいる。管理者は終末ではな くそれまでのケアが大切と考えており、利用者が納得し満足してもらえる よう支援に努めている。また内部研修で急変時対応等の勉強会も持っており、 職員の意識向上につながっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 内外の研修で急変時や事故発生時の対応について学ぶ機会を持っておりマニュアルをホーム内に掲示している。主治医や管理者、職員の役割や責任、判断の基準や権限を明確にしておき、日々のケアの中で実践する機会もある。いつ急変や事故に遭遇しても対応できる力をつけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は、近所の方、事業所関係者全員、地域の消防署の協力の下で行っており利用者を避難させる方法を身に付けている。また、ご近所様との支援体制もできている。管理者は、内外での災害対策の勉強会に出席しており最新の情報や過去の事例を知る機会を得てそれを事業所の災害対策に生かしている。災害別のマニュアルをホーム内に掲示している。 (外部評価) 年2回消防署立ち合いのもと避難訓練を行っており、地域住民も連絡網に入り訓練にも参加するなど協力体制が整っているほか、管理者自身も地域の消防団員であり緊急災害時の連携は万全である。近くには危険区域ではないが土砂崩れが心配な箇所があり、行政とも確認済で今後の検討課題となっている。内外の災害対策の研修会や勉強会に参加するなど、日頃から防災意識を高めるよう努めている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の暮らしの支援は、利用者のペースで利用者の自己決定で行われるように配慮している。一人一人に合わせた言葉かけや対応の工夫をホームの皆で意見を交わしながら行っている。排泄や食事摂取などケアの様々な場面でも安全に配慮しながらも最大限プライバシーの保護に努めている。 (外部評価) 排泄や入浴時には利用者の気持ちを理解し、自尊心を傷つけないよう配慮している。職員は利用者の要望を聞き、思いをしっかりと汲み取るよう努めている。職員は常に利用者に尊敬の念を持ち「ありがとう」という感謝の言葉を忘れないようにしており、利用者の尊厳を守ることを第一に考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の暮らしの支援は、利用者のペースで利用者の自己決定で行われるのが原則であるとの認識の下でサービスの提供を行っている。思いや願望はサービス計画の課題として取り上げ達成が出来るような支援内容を作っている。細かな日々の希望や意向はその都度迅速に対応を行っている。意図的に希望や思いが表出できるように取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ペースが異常に早い方がいたり、それぞれ必要な介助の量が違ったりとなかなか難しいことではあるが、介助者側の都合にならないように一人一人のペースに合わせた暮らしの支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えを自分で選んでもらったり、職員と一緒に選んだりして頂いている。毎朝、モーニングケアとして身だしなみの確認や整える支援を行っている。家族様の協力で定期的に美容院へ行っている方も居る。行事や外出などではなるべくおしゃれが出来るようメリハリをつけるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生日には、ご本人の要望に合わせた献立にしている。献立には季節の新鮮なものを使っている。アドバイスを頂いたり、片づけを一緒に行っている。全員でテーブルを囲んでゆっくりと話をしながら食事を楽しむ雰囲気づくりに取り組んでいる。 (外部評価) 職員全員が順番で献立を立てたり食材の買い物をしている。食事前には体を動かし食欲増進を図ったり、旬の野菜を取り入れ利用者に季節感を味わってもらするなど、食事を楽しんでもらえるよう努めている。調査日当日も菜園でとれた大根を使ったメニューで、利用者は満足そうに笑みを浮かべ職員も一緒に食卓を囲んで和やかな雰囲気の食事風景であった。誕生日のリクエストメニューや正月にはおせち料理が味わえるなど工夫されている。また、利用者の自主性を尊重し食後の片付け等できることを手伝ってもらっており、貴重な戦力となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の食事量や水分摂取量を記録して把握している。定期的に検査を行い栄養状態の把握も出来ている。無理強いせず、食べれるだけ飲めるだけ、ご本人の意向に合わせて飲食の支援を行っている。栄養補助飲料で不足分を補える支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔内の清潔維持の重要性を認識している。介助の必要な方には、付き添って支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄の記録を行い一人一人の把握に努めている。排泄にかかわる動作のうちどこかの介助が必要なのか把握して自立を支援している。また、トイレで排泄が出来なくならないように毎日立ち上がりや立位の保持などの訓練を行っている。	
			(外部評価) 各ユニットにトイレが3か所設置されており、車いす利用でも余裕のある広さで、手すりや立ち上がりバー、背もたれが設置され利用者が安全に排泄できるよう配慮されている。職員はトイレで排泄する意義を十分に理解し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の記録を行っている。基本的には、毎日の運動や栄養・水分摂取で気持ちのよい排便を目指している。出にくい方には、主治医と相談して内服薬で調整したり、マッサージ、腹部を温めるなどの工夫をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望があればいつでも入浴は出来る。毎日を希望される方は居ません。今日は、いつごろ入りたいか毎回伺っている。湯加減やご本人の習慣に合わせ、能力に応じた介助を行い気持ち良く、安心して入浴できる支援を行っている。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本としているが、希望があればいつでも入れるよう対応している。リフトの設置など、利用者の状態に合わせて安全に入浴できるよう配慮されおり、浴槽は両側から介助できるよう中央に設置されている。入浴の苦手な利用者には声かけのタイミングを変えたり、同性介助に切り替えるなど工夫し、無理強いすることなく入浴できるよう支援している。また、季節に合わせゆず湯にし利用者に喜ばれるなど、入浴時間を楽しんでもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご本人の判断を優先して休みたいとき、寝たくなった時に自由に寝起きをしていただいている。自分の家から使い慣れた寝具を持って来ている方も居る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別の投薬管理表があり、どんな薬を服薬しているのか分かるようにしている。一回一回分包されていて、飲み込みの確認を行っている。薬の変更や、症状の変化などは申し送りノートに記載、変化を主治医へ報告している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人や家族様から生活歴や嗜好、趣味の情報を得て、多様、多様なレクリエーションを提供し、ホームでの生活の中で一人一人が生き生きとした場面を作り出せるように支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の悪い日以外は毎日散歩に出て田畑や山の風景を見たり近所の人とのふれあいの支援を行っている。散歩の回数も希望に合わせている。普段の生活の中で希望があればドライブや買い物に気軽に行ける支援を行っている。家族様の協力で昼食や美容院のための外出や1, 2日の外泊をする方も居る。 (外部評価) 暖かい日には近くにある3か所のお堂を順番に回ったり、近くの鯉が泳いでいる川や一面に広がる田畑などを見ながら散歩し、自然を満喫している。また、職員と買い物に出かけたり、家族や知人と一緒に地元に帰ったり外食するなど、利用者が思い思いの時間をゆっくり過ごせるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望や力に合わせてお金を所持して頂いている。移動販売やお店に行って食べたいものや生活用品を買っていただいている。スーパーが遠方なので希望に応じて、職員が買い物を代行することもある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の要望があればいつでもかけて頂いたり、要望がなくても贈り物が届いた旨を伝える電話をしていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 花や装飾で季節感を出したり、山の中なのでこまめに温度や光の調節を行い気持ち良く過ごせるように配慮をしている。また、ソファや椅子などを置き共有空間でも自分の居場所が確保できるようにしている。ホーム内の消毒や掃除をこまめに行い清潔を維持している。常に、家だというコンセプトを崩さずに共有空間作りをしている。	
			(外部評価) テラスに設けられた家族手作りの軒のお陰で、リビングに差し込む日差しはやわらかく気持ちがいい。壁には書初めや小学生との交流写真、利用者の手作り作品が飾ってある。また、できるだけ生花を飾って季節を感じてもらおうようにしており、居心地よく過ごせるよう努めている。廊下には吹き抜け部分があり、家族手作りの物干しを利用し天気の悪い日の洗濯物を干す場所にも事欠かない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや椅子を配置して自分の居場所が確保できるようにしている。気の合った者同士でおしゃべりをしたり将棋などのゲームをしている時もある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時には、家族様へ新品の物でなく使い慣れた生活用品を持って来て頂くようお願いしている。基本的に持ち込みの制限は行っていないので一人一人の居室が個性的である。寝具や時計、思い出の写真や家族様からのプレゼントなど、楽しみや安心感が持てる自分だけの部屋を作っている。	
			(外部評価) ベッドとエアコン、タンスが備え付けとなっている。利用者は使い慣れた家具やテレビ、時計などを持ち込み、壁には千羽鶴や誕生日祝いの寄せ書きが飾ってあったり、お札や亡き夫の写真が持ち込まれ、毎朝お経を唱える利用者もいるなど、それぞれ個性のある部屋になっている。部屋の入口には避難確認がわかる板を吊り下げており、表には利用者の思い思いの言葉が書かれ、裏には避難済みがわかるテープが貼ってあり、緊急時に配慮した居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室の設備、分かりやすい標識、身の回りの家事などに関して、それが出来る為、分かる為にはどうすれば良いのかを検討して一人一人が力を発揮しながら安全に生活できるように配慮を行っている。	